

余白を生むデザイン

本作品は、敷地を最大限利用するため、隣地ギリギリに壁を設ける住宅が増え、「街全体が窮屈になっているという社会課題」に着目しています。

私たちは誰もが不快に感じない外構づくりを目指し、従来の慣習に一石を投じる「余白を生むデザイン」を提案します。

これは住宅デザインを超え、地域への貢献や新たなライフスタイルの提案を通じて、共通の価値観や新しい価値の創出に挑戦するものです。

本デザインは快適な屋外空間と隣との良好な関係性の構築を目指し、以下の3点に注力しています。

- ・屋外空間にリビングを持ち出すことで、「新しい屋外生活の可能性」を示し、住宅における生活の質を豊かにします。
- ・目隠しには、安全性を考慮して「**硬質発泡材の高い壁**」を設置し、高低差のある工作物で囲い感を出すことで、プライバシーと安全を両立しました。
- ・これらの設計により、快適で開放的なアウトドアリビング空間が実現しました。

デザインは、「無駄な空間を減らしたい」という施主の希望と、「メンテナンスを楽にしたい」という要望という矛盾から発想を得ました。

実用的なスペースを確保しつつ、庭管理スペースを境界線側に設けるなど隣地に配慮した設計を行い、落葉対策も考慮して植栽の配置を工夫しました。

その結果、敷地利用だけでなく良好な近隣関係を築くことで、「**笑顔であじわ**」  
**できる空間**」が生まれました。これは地域課題の解決に貢献し、人々のつながりや交流を促す空間として機能します。

従来の設計では、「敷地いっぱいを使いたい」という希望が、お隣の敷地に枝が伸びたり、メンテナンスが困難になるなどの問題を生むことがありました。しかし本デザインは、未来を少し見据え、「**余白を意識する**」ことの重要性を示しています。

この「余白」は美観や機能性だけでなく、隣地との緩衝地帯としてメンテナンスの容易さを確保し、トラブルの未然防止にも寄与します。

この思想は、個別の解決策に留まらず、「**地域の景観や環境への貢献や、地域や社会が抱える問題の解決**」を促し、「また違った街並みが生まれてくる」可能性を秘めています。

Nice  
My First Step  
Have a lovely day!

# Creating margins in the garden

BEFORE



AREA

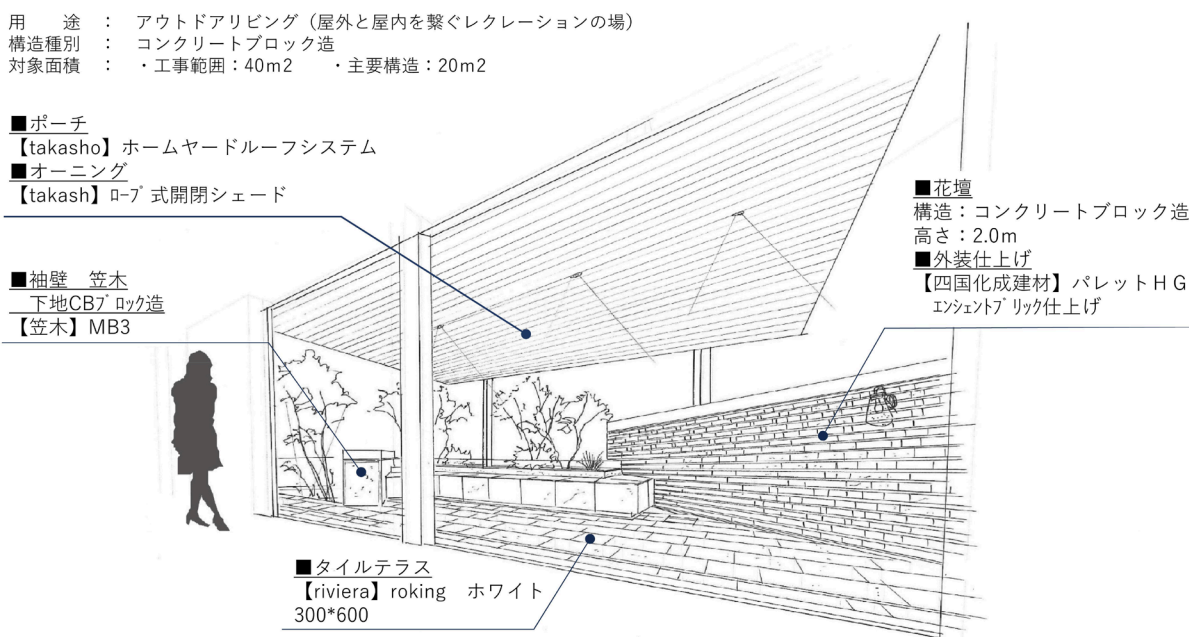


建築地は、奈良県内の閑静な住宅地内にあります。

敷地は、80坪ほどあり、決して狭いとは言えませんがお隣様との距離は近い気がします。

庭先は面しているお隣様のお庭と非常に近いにあります。

STRUCTURE



DRAWING

